

# vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

# 3

MARCH  
2011

## CONTENTS

ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル… 1~2	
ちょっとお昼にクラシック	
上村 昇 (Vc) & 迫 昭嘉 (Pf) …… 2~3	
SELF PORTRAIT	
兼氏規雄 クラリネット・リサイタル …… 3	
小川 遥 ピアノ・リサイタル …… 4	
水戸うらら女声合唱団 …… 4	
最近の公演から …… 5	
プチ情報 …… 5	
インフォメーション …… 6	



写真:ヒラリー・ハーン ©Olaf Heine

## — 凛としたまなざしで見つめる、音楽の新たな地平 — 世界最高峰のヴァイオリニスト、待望のソロリサイタル！

● 3/26(土) ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル

最初の一音が響いた瞬間から、その人が奏でる音楽が、途方もない高みにあることを予感させる——そんな際立った光彩をはなつヴァイオリニストのヒラリー・ハーンが、いよいよ水戸芸術館で待望のリサイタルを行います！

まずは彼女のプロフィールを簡単にご紹介しましょう。生まれは1979年、米国ヴァージニア州。3歳でヴァイオリンを始め、その後わずか10歳で名門カーティス音楽院に入学し、ベルギーの偉大なヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイの最後の弟子、ヤッシャ・プロツキーに師事しました。入学1年半後にはオーケストラ・デビュー、15歳で巨匠ロリン・マゼール指揮するバイエルン放送交響楽団と共演しドイツ・デビュー。その翌年にはフィラデルフィア管弦楽団のソリストとしてカーネギー・ホール・デビューを果たします。日本には2000年のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との共演以降、今回で8度目の来日。世界各地の一流オーケストラとの共演や、注目すべきリサイタル・シリーズへの出演など、今やその存在は世界の音楽シーンに欠かせません！

完璧なまでに磨きあげられた演奏技巧や、作品の本質に鋭くせまる深い楽曲解釈、そしてそれを踏まえた上で、音楽をどこまでも自然に美しく響かせる表現力が魅力のヒラリー・ハーン。彼女は、私たちに単なる「華麗なキャリアを歩み続ける一流ヴァイオリニスト」という以上の存在感と深みを感じさせてくれます。それは、音楽に凛と向き合い、作品そのものに語らせるといふ、音楽家としてのどこまでも真摯なあり方に所以があるのではないのでしょうか。そんな姿勢が覗える彼女

の言葉を以下に引用してみましょう。

「全ての活動を続けながら新たなことも追求していきたいと思っています。私の大きな目標は単純に、日々よりよい音楽家になっていくことです。少しずつの積み重ねがやがて大きなものになると信じています。」

(2010年7月号「Mostly Classic」P.88より)

また彼女はシェーンベルクとシベリウスのヴァイオリン協奏曲を収録した自身のCDのライナーノートで、こんな言葉を残しています。

「このアルバムは私の捧げ物でもあります。この2つの作品への捧げ物、その作曲家たちへの捧げ物。そして未熟さや誤った思い込みを正し続けることへの捧げ物です。」

アーティストとしての完成度の高さには比類がないヒラリー・ハーンですが、その根底には、上記の言葉からも感じられるように、奢りや虚飾とは無縁の謙虚な姿勢があるのです。真摯に作品と対話し、脈打つような強いエネルギーをもって、純粹に楽曲から新たな輝きを導き出す。そして音楽を通して聴衆とのコミュニケーションを楽しむ…そんな「真の音楽家」がヒラリー・ハーンなのです。

彼女はドイツ・グラモフォンとソニーから11枚のソロアルバム、3枚のDVDなどを発表しており、グラミー賞をはじめ数々の荣誉ある賞を獲得しています。そしてレコーディングやリサイタルでは、いつも斬新なレパートリーや曲目の組み合わせで進境を示しています。特に、最近では以下の発言のように、同時代の作品まで視野に入れた音楽活動にも意欲的に取り組んでいます。

「私は、作曲家たちは、すべて時系列に存在し、シークエンスを形づくっていると思います。したがって、過去を無視すれば、そのシークエンスを破ることになります。同時代を無視すれば、シークエンスの行き場がなくなってしまい、音楽の生命の流れを断ち切ることになるでしょう。(…)私は、同時代の音楽は、18世紀、19世紀、20世紀の音楽と同じくらい重要であると考えています。もちろん、私が全てのことをできるわけではありませんが、常に新しいものを自分で吸収しようと思っています。」

(2008年7月号「レコード芸術」P.19より)

水戸を含む今回の日本ツアーで演奏されるのも、広い視野をもって多彩な作品を取り上げる彼女ならではの刺激的なプログラムとなりました！まずはタルティーニ/クライスラーの小品で幕開けを飾ったあとは、ベートーヴェンの10曲のヴァイオリン・ソナタのうち、第9番〈クロイツェル〉と並んでよく知られている第5番〈春〉をお聴きいただきます。〈スプリング・ソナタ〉という愛称で親しまれているこの作品に、彼女がどのように新鮮な光をあてるのか、期待に胸が高まります！そして彼女の出身地、アメリカの現代作曲家の作品も2つ演奏されます。まずはアメリカの民俗的メロディを大胆に取り入れたり、実験的手法を試み、アメリカ20世紀音楽史における最初の大作曲家と言われるアイヴス(1874~1954)の作品を。彼の故郷、コネチカット州で当時よく行われていた子どもたちのキャンプの情景を回想して書かれたヴァイオリン・ソナタ第4番〈キャンプの集いの子供の日〉。またその代表



上村 昇

作〈バレエ・メカニック〉ではサイレンやプロペラ音といったノイズを音楽に取りこむなど、前衛音楽の旗手として名を馳せ、近年再評価されつつあるアンタイル（1900～59）の作品から、ピアノの機械的な性質やヴァイオリンによる打楽器的な効果が追求されたヴァイオリン・ソナタ第1番をお聴きいただけます。また当初は、J.S.バッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番が演奏さ

れる予定でしたが、演奏家の都合により、無伴奏ヴァイオリン・バルティータ第1番に変更となりました。1996年～97年に録音され、若干17才で衝撃のデビューを飾ったCD「バッハ：シャコンヌ」のライナーノートにて、ヒラリーは「バッハだけは私にとって特別なもので、ちゃんとした演奏を続けていくための試金石のような存在」と述べています。今回の共演者は、2007年以降、彼女

の大規模なツアーで共に世界を巡っている、ウクライナ出身のピアニスト、ヴァレンティーナ・リシツァです。

世界が認める真のヴァイオリニスト、ヒラリー・ハーンがこだわりをもって選びぬいたプログラムで、どんな新境地を開拓するのか…どうぞお聴きのがしなく！

《高巢》

## 上村 昇、チェロの魅力を存分に語る

● 3/9(水) ちょっとお昼にクラシック 上村 昇(チェロ) & 迫 昭嘉(ピアノ)

——長年第一線で演奏活動をされてきて、あらためてチェロという楽器の魅力についてお聞かせください。

上村：今度のコンサートはソロでお招きいただいて、ソロの名曲をたくさん演奏しますけれども、チェロという楽器の魅力は、やっぱり室内楽、特にカルテットをやったときに一番発揮されるような気がします。もう10年以上も京都のアルティ弦楽四重奏団の活動をしていますが、チェロは最も低い音域でハーモニーを支える楽器です。ソロの時のようにスポットライトが当たるわけではないし、目立つわけでもないですけども、音楽的には低音は非常に重要ですね。それを受け持つというのは非常にやりがいがあるし、魅力的でもあります。

——チェロを始められたきっかけは？

上村：父が京都市交響楽団のチェロ奏者だった影響で、7歳の頃にチェロの手ほどきを受けましたが、たった2年で見事に(!)やめてしまいました。厳しい世界が待ち受けているように見えて、そこから逃れたかったのでしょうか。でも、音楽は小さい頃から嫌いなわけではなくて、軽音楽、特にビートルズは大好きでした。小学5年生のときに友達からビートルズのドーナツ盤を借りて聴いたのをきっかけに、高校3年の頃までずっとビートルズばかり聴いていました。

——そうすると中学・高校時代、チェロは？

上村：チェロは、一度やめてから、もうずっと忘れていました。父もあきらめていましたし。そ

れで、大学を受験する段階になって、「本当にやりたいのは何か」と考えた時に、自分は音楽をやりたいのかなど。本当はジャズとかロックとか軽音楽のほうに惹かれていたんですけども、音楽をやるんだったらクラシックで基礎を勉強しておいた方がいいということもあり……。ですから、受験のためにしばらくぶりでチェロを手にしたんです。

——すると大学に入られてからクラシックの世界に本格的に入られていったと。

上村：京都市立芸術大学でついた黒沼俊夫先生の影響は大きかったです。厳しくてつらい世界が待っているんだろうなと思っていたら、割と「放牧場」みたいな感じで、その柵の中で自由に走らせてくれた感じです。ここぞというところはしっかり手綱をしめられましたけど。黒沼先生のおおらかさには助けられましたし、感謝しています。

あとは、授業で歌ったベートーヴェンの〈第九〉で、その第3楽章をステージ上で初めて聴いて「こんなに美しい音楽がこの世の中にあっただのか！」と驚いたり、アイザック・スターンの演奏会に行き、ブラームスのヴァイオリン協奏曲を聴いて、涙が止まらないくらい感動したり……。クラシック音楽ってすごいんだな、これはやってみる価値があるなと思いました。自分もできるところまでやってみよう。

——朗々とした響き、体に伝わる音圧、それから訴えかけるようなヴィブラート…上村さんなら

ではのチェロ演奏の秘密は？

上村：黒沼先生からはよく「大事に弾きなさい」と言われました。それがどういうことなのか、自分なりにいろいろ考えてきました。一音一音しっかりと弾いて、弾き飛ばさないようにすること—これはいつも心がけています。ついでに鳴ってしまうような音ではなく、自分で意図して、意識して音を出すということですね。本格的にチェロを始めたのが遅かったので、速いパッセージなんかは、小さい頃からずっとやってきた人たちに比べたら弾けない。自分にとっては「速く弾く」というのは苦手な分野だったので、メロディーを美しく弾いて勝負する。そういう方向で自分は伸びていくしかないというのは学生の頃から考えていましたね。

——今回のプログラムでは、それこそ速いパッセージの曲もあり、朗々とメロディーを歌う曲もあり、様々な曲が並べられています。

上村：けっきょく両方できなくてはいけないんですよ！「速く弾ける」ということは、僕の中でコンプレックスであったと同時に、すごい憧れでもありましたので、なんとか弾けるようになりたいと必死に練習しました。

前半の2曲は、どちらかと言うとシリアスな作品です。ベートーヴェンの〈チェロ・ソナタ 第3番〉は、ひとつの金字塔みたいな作品。というのは、それまでの作品は、ベートーヴェンの作品も含めて、〈チェロ・ソナタ〉とは書かれていても、実際は〈ピアノ・ソナタ〉で、チェロはオブリガートでした。この〈第3番〉のソナタから、チェロはピ



兼氏規雄

アノと対等になったんですね。しかも、この曲は、ベートーヴェン中期の〈運命交響曲〉や〈田園交響曲〉など、名曲がたくさん書かれた時期のもので、音楽の充実度も凄いです。

シューベルトの〈アルペジオーネ・ソナタ〉も避けて通れないレパートリーですね。アルペジオーネは、ウィーンで一時的にはやった楽器で、弦がもっとたくさんついていて、チェロよりも高い音域まで弾ける楽器でした。これをチェロでやるので、技術的には非常に難しくなります。シューベルトらしい美しいメロディーが随所あって、全編を通じてまるで歌曲のようです。

後半は、よりリラックスしてお聴きいただきます。サン＝サーンスの〈白鳥〉、エルガーの〈愛の挨拶〉など、チェロのいろいろな表情を楽しんでいただけたら嬉しいです。

—— 共演に迫昭嘉さんがいらっしゃるというのも大きな話題です。

上村：迫さんとはずいぶん長い付き合いになります。僕がジュネーブに留学していた頃、ジュネーブで国際コンクールがあって、彼は最高位をとりました。その本選で弾いたベートーヴェンの〈ピアノ協奏曲 第4番〉を聴いて、本当に素晴らしかった。それに、彼の音楽と向き合っている姿勢みたいなものがとても印象深く、いつか一緒に演奏できたらとその時強く思いました。そうしたら、帰国してすぐにチャンスが巡ってきて、ブラームスの室内楽と一緒に弾くことが出来ました。かれこれ30年以上のお付き合いになります。迫さんとの共演だと、お互いに何を求めているかがすぐに理解し合えますから、ほとんど言葉は要らないくらいです。

—— 水戸芸術館では開館当初から20年以上にわたって演奏されてきました。ホールの印象はいかがですか？

上村：ATMアンサンブルでも、水戸室内管弦楽団でも弾かせていただいて、いつも思うんですけども、水戸のお客様って本当に演奏会を楽しんでいらっしゃるなぁと感じます。演奏し終わって、こちらで一息ついたところに、お客様もリラックスして楽しかったというのが拍手を通じて伝わってきて、ホール全体が温かい感じで満たされます。その雰囲気は、僕はすぐくアットホームに感じるんですよ。お客様の表情がとてもこやかで、演奏家としてはそういう表情に接すると心からホッとします。そういう空間ですね、水戸芸術館は。

2011年2月4日、東京にて  
《聞き手：関根》

## SELF

## PORTRAIT

### ロマン派クラリネット作品の 名曲を巡る。

■3/6 (日)

兼氏規雄

### クラリネット・リサイタル

白鳥は死の間際、最も美しい声で鳴くという言い伝えがあります。そのことから、作曲家や詩人の最晩年に作られた、最も純粋で美しい作品を「白鳥の歌」という言葉で表現されています。

シューベルトなどは、遺作となった歌曲集の題名が、偶然にも〈白鳥の歌〉と名付けられているためにとってもわかりやすいのですが、最後の作品が駄作だったりする作曲家も時にはいるため、必ずしも遺作だけに着目するわけにもいかず、どの作品が「白鳥の歌」なのかを客観的に判断することは簡単ではありません。ただ、作曲家自身が死を予感してからの作品というものは、それまでのものに比べて明らかに、より深い精神性を追及した作品に仕上がっていることは事実です。クラリネットの作品としては、モーツァルトが死の2ヶ

月前に作曲した〈クラリネット協奏曲〉の、特に第2楽章がよく「白鳥の歌」の候補にあげられます。装飾性が極力排除され必要不可欠な音のみで構成されているため、表現方法としては形ではなく、音色がほとんどのウェイトを占めることになります。協奏曲特有の、通常であれば第1楽章終わりに置かれるカデンツァさえ挿入場所がなく、名人芸の披露を禁じています。

クラリネットの作品ではもう1曲、よく「白鳥の歌」の候補にあがるのが、今回のリサイタルで休憩前に演奏するサン＝サーンスの〈クラリネット・ソナタ〉です。死の直前86歳の作品で、彼自身が長い生涯を振り返るという形で書かれている点も意味深で、大変興味あるところ。サン＝サーンスのテーマともいうべき叙情的な第1楽章から始まり、回想的で、青春の日々を思い出すかのような第2楽章、自身の墓碑ともいえる第3楽章、第4楽章は激動の後、第1楽章冒頭のサン＝サーンスのテーマが戻り、平穏に、そして幸福感に満ちて人生を閉じるかのように曲は終わります。

ピアニストの小坂圭太さんとは、水戸芸術館では3度目の協演となりますが、レガートを極力大切に、丁寧に歌を作り出せる彼のことでしか

ら、サン＝サーンスも非常に期待できます。演奏会後半はファゴットの井上俊次さんも加わります。3年前に東京でシューベルトの〈八重奏曲〉を協演して以来なのでとても楽しみです。彼の肌理細かな音色に是非注目して下さい。

メインプログラムは「近代ロシア音楽の父」と呼ばれている格林カの〈悲愴三重奏曲〉です。ロシアの〈悲愴〉といえば、まずチャイコフスキーの「暗い悲愴」を思い出すのですが、格林カの〈悲愴〉は、同時代を生きたベートーヴェンの〈悲愴〉に近い雰囲気があります。イタリア滞在中の作品であるため、その影響を多分に受けており、全4楽章のうち第1、第4楽章は確かに悲愴感たっぷりですが、イタリアの明るい陽射しを思い起こさせられるスケルツォの第2楽章と、ゆったりとしたカンツォーネを想起させられる第3楽章を間に挟むことにより、全体の印象がだいぶ柔らかくなり、とても聴きやすい曲に仕上げられています。本当に感動的な曲ですので当日は是非、足をお運び下さい。

兼氏規雄



小川 遥



水戸うらら女声合唱団

## パリで活動するピアニスト、 小川 遥 がお届けする 「幻想的な午後」。

### ■3/13 (日) 小川 遥 ピアノ・リサイタル

もうかれこれ渡仏からほぼ10年経ってしまった私。幸いにもフランスという国は親日国家で、私が日本人だとフランス人に言うと、ほとんどの方が「まあ、日本の文化、私大好きなのよ」だとか、「いつか日本に行ってみたいと思ってるの！キョートみたいな古い街並みとか、トーキョーの信じられないようなビル街…」なんて、ジェスチャーを交えて日本愛を伝えてくれます。

ところで、こんな風にフランス人は自分の好きなこと、嫌いなこと、悩み事、うっ憤なんかを本当にすぐ表に出します。特に些細な文句…。独り言なんだか聞いて欲しいんだか、人がどれだけのてもかまわずにぶーぶー。

最初はその光景に驚きましたが、よく考えたら、日本人だって頭の中では大体おなじ事を考えているのです。ただ日本には人の目を大事にする文化があるので（思いを秘めなければ失礼、迷惑→人を大事にする文化なんですね）ダメダメ、と自分にブレーキをかけて、人に囲まれた場所で素直な気持ちや文句などが言えなくなっているだけなんですよ。

思えば、フランスはストやらデモやら、筋金入りの意思表示文化で有名です。また日常でも、フランスに限らず西洋文化では、自分の思ったことを言葉にして言わないと何を考えているんだろう？と思われてしまい、コミュニケーションが成立しないのです。

対して日本ではお辞儀で自分を下げ、日本語からは主語も抜け、「あの」「いやー」「まあ」など曖昧にする言葉も多く、いろいろな所に来るだけ自分を無にしようとする文化が染み付いています。

そんなわけで自分をそのまま表に出す民族の育てた文化であるクラシック・西洋音楽。ところがまったく違う文化であるのに、日本人のクラシック音楽への関心は全世界を見渡しても相当に高いものなのです。考えればそれも納得でき

ると思いませんか？…日本独特の風習の中で内に秘められた感情、嬉しさ、悔しさ、辛さ…それが西洋の素直で強い表現力に惹かれ共感することで、解放されるのだと思うのです。

今回の水戸芸術館リサイタル「幻想的な午後」では、そんな西洋、表現文化の中で育った偉大な作曲家の心がそのまま解放され、形式などの制約なく自由に作曲された、表現豊かな「幻想曲」ばかりを取り揃えてお送りします。

皆さん、ぜひ日曜の午後ゆっくりと、モーツァルト、ショパン、スクリャービンなどの素晴らしいファンタジーに共感しに、そして日ごろの抑えられたものを解放しにいらして下さいね！

小川 遥

## “美しい日本語”を響かせて 35年。水戸を代表する女声合唱団の記念演奏会。

### ■3/27 (日) 水戸うらら女声合唱団

1976年水戸市文化福祉会館（現水戸交流プラザ）に中澤敏子常任指揮者のもと「水戸うらら女声合唱団」が誕生し、今年で35年目を迎えました。指揮者のライフワークである“美しい日本語を大切に、そして詩心を訴える歌唱法”を研究しながらの合唱づくりが始まりました。

発足して5年目に高田三郎作曲〈雛の季節〉で「全日本おかあさんコーラス全国大会」に初出場し、生きる事への問いかけをひたすらに希求求めてゆく高田音楽に魅せられました。やがて札幌で行われた全国大会には、池辺晋一郎作曲〈万葉ひたちの歌〉で故郷の筑波に残された古歌を歌い

ました。また水戸芸術館に於ける第5回定期演奏会の折には難曲とされる新実徳英作曲〈をとこ・をんな〉を演奏し、飛躍の年となりました。

今回第1ステージでは忘れられない思い出の曲を集めて演奏いたします。まず高田三郎作曲〈心の四季〉から“風が”を、次に池辺晋一郎作曲〈六つの子守歌〉の中からミステリアスな世界を思わせる私たちの大好きな“いつもの子守歌”を、3曲目は中田喜直作曲〈美しい訣れの朝〉から“おかあさん”、これは一昨年「おかあさん全国大会」で「ひまわり賞」をいただいた曲であり、指揮者生活60年の中澤先生が故木下保先生直伝の「美しいことば」「かたりの世界」を心を込めて歌い上げます。4曲目は三善晃作曲〈光のとおりみち〉から“雪の窓辺に”、優しさ溢れるメロディーと共にピアノの美しい流れにもどうぞ耳を傾けてください。

第2ステージは姉妹合唱団の「みと葵女声合唱団」とともに信時潔作曲〈女人和歌連曲〉を全曲演奏いたします。万葉中期の女流歌人額田王に始まる平安時代の紫式部や清少納言など王朝歌人による和歌9首をとりあげます。この曲は信時先

生の遺作であり、ご存命中には演奏されませんでした。中澤先生の恩師であられる「やまとことば」の提唱者・木下保先生指揮により初演されたものです。

第3ステージは吉田覚編曲による慣れ親しまれた世界の民謡、〈故郷を離れる歌〉など4曲を会場の皆様と共に楽しみたいと思います。

第4ステージは今すばらしい活躍をなされている寺嶋陸也先生をお迎えして、先生作曲の2つの組曲を演奏いたします。〈花三題〉は視覚的印象の強い重みのある谷川俊太郎の詩に作曲されたもの。〈朝顔の苗〉は鈴木敏史氏の人間味溢れる6編からなる温かい詩によるもので、清純な美しい旋律を寺嶋先生の慈しみあふれるピアノのひびきと共に合唱をお楽しみください。

うららは今後もすてきな作品を求めて「中澤サウンド」を楽しみながら歌い続けてゆきます。

団長 鴨原みよ子

## 最近の公演から

JANUARY



1



2



3



4

### ニュー・イヤー・コンサート2011

#### —ウィーン、わが夢の街— (1月5日)

今回のニュー・イヤー・コンサートは、水戸室内管弦楽団・楽団員代表の堀伝さんをミュージカル・アドヴァイザーに迎え、専属楽団メンバーと野平一郎さん(ピアノ)、幸田浩子さん(ソプラノ)、小菅優さん(ピアノ)ら豪華ゲスト、そしてNHK水戸放送局キャスター今野美由紀さんの司会でお届けしました。ウィーンがテーマのニュー・イヤー・コンサートという、きっとワルツやポルカをイメージされる方が多いかと思いますが、この演奏会ではモーツァルトやベートーヴェンから、シェーンベルクまで、多彩な作曲家の顔ぶれが並びました。そしてウィーンという音楽の都に脈々と息づく豊穡な音楽の流れや、この都市が古今あらゆる大作曲家たちを惹きつける磁場としてあったことを、名手たちの熱演を通して改めて感じていただける、まさに水戸ならではのニュー・イヤー・コンサートとなったのではないのでしょうか? 3時間の演奏会最後のカーテンコールまで温かい拍手をお贈りくださった皆様、どうもありがとうございます! アンコールは、ヨハン・シュトラウス2世の〈ピチカート・ポルカ〉。《高巣》アンケートから●毎年楽しみに来ています。さすが水戸芸術館専属楽団の皆様、気心知れた方々の「絆」がこの美しい音楽を奏するのでしょう。またそれに花をそえる幸田さんの素晴らしいソプラノ! 今年は良い年になりそうです。(栃木県烏山市:F.W.さん)●こんなにも名手が一度に揃うのはめったにないことだと思ふ。さすが吉田秀和さんが館長を務めているホールだと思った。(土浦市:K.K.さん)●皆様の素晴らしい演奏に感動。小菅さんのパワフルな集中力もすごい。「心を尽くし、力を尽くす」そのままでした。(日立市:T.O.さん)●人間の声は最高の楽器といいますが、幸田さんのソプラノはまさにその通り。小菅さんも最高に良かったです。磨き抜かれた音、高い芸術性に感動しました。(栃木県鹿沼市:T.F.さん)●幸田さんを生で聴けて感激です。他の演奏者も素晴らしく、内容もバラエティに富んで良かったです。ニュー・イヤー・コンサートは初めてですが、これから毎年来るつもりです。(日立市:T.M.さん)

### 水戸室内管弦楽団第81回定期演奏会

#### (1月29日、30日)

小澤征爾音楽顧問が腰の手術で降板せざるを得なくなったため、急遽内容を変更して開催した水戸室内管弦楽団(MCO)第81回定期演奏会。指揮者には、東京クワルテットの創立者の一人で、水戸芸術館では専属アンサンブルの奏者としておなじみの原田幸一郎氏を、ヴァイオリン独奏には第13回チャイコフスキー国際コンクール優勝者・神尾真由子氏を迎えました。公演日間で一月を切った時点での突然の依頼にも快く応じ、水戸まで駆けつけてくださったお二人に心から感謝申し上げます。モーツァルト〈ディヴェルティメントK.136〉では、弦の奏法と響きを知りつくした原田氏のタクトのもと、MCOがやわらかく、澄み切った弦楽合奏を披露。続くメンデルスゾーン〈ヴァイオリン協奏曲〉では、厚重なMCOの伴奏に乗って、神尾氏が情熱あふれるソロで聴衆を圧倒。神尾氏のアンコールは、パガニーニ〈2のカプリース〉から第13番(29日)、第21番(30日)。最後のモーツァルト〈リンツ〉では、原田氏のバランス感覚が冴えに冴え、軽やかで典雅な響きがホールを満たしました。アンコールは、シューベルト:劇音楽〈ロザムンデ〉から間奏曲第3番。《関根》アンケートから●Bravi! 何て心地良く、わくわくするコンサートだったでしょう! 終始、芸術の崇高さに、幸福感に満たされておりました。ありがとうございます。(ひたちなか市:Y.N.さん)●「原田さん…潮田さん…神尾さん」を聴けてよかったです!(水戸市:K.Y.さん)●原田さんには誇張のない「大人の」音楽を聴かせていただきました。小澤さんのキャンセルで、聴衆には正直がっかり感があったかもしれませんが、そんな気持ちを補って余りあるコンサートでした。こんなあたたかい気持ちになれるコンサートはそう経験できるものではありません。(水戸市:N.H.さん)●神尾さんが本当にすばしかったです。きれいで、ヴィヴィッドな表情、演奏。恩師とともに大いに楽しめたことと思います。(水戸市:F.S.さん)●原田先生の指揮がとてもよかったです。団員の皆さんとの信頼感が伺える演奏でした。なめらかに手が動いて、音をまとめあげる。安心してリラックスして聴くことができました。(那珂市:無記名の方)

1~2. ニュー・イヤー・コンサート2011 —ウィーン、わが夢の街—

3~4. 水戸室内管弦楽団第81回定期演奏会



## ニュー・イヤー・コンサート2011 —ウィーン、わが夢の街—の プログラムをご紹介します!

ヨハン・シュトラウスII世(トッツァウアー編曲): トリッチ・トラッチ・ポルカ 作品214 (指揮: 堀伝 Vn1: 田中直子、久保田巧、豊嶋泰嗣、中村静香 Vn2: 加藤知子、沼田園子、小林美恵 Va: 川本嘉子、店村眞積 Vc: 堀了介、松波恵子 Cb: 谷口拓史 Cl: 四戸世紀) / クライスラー: 〈愛の悲しみ〉(Vn: 久保田 巧 P: 野平一郎)

野平一郎) / 〈美しきロスマリン〉(Va: 川本嘉子 P: 野平一郎) / 〈ブナーニの様式による前奏曲とアレグロ〉(Vn: 加藤知子 P: 野平一郎) / モーツァルト: クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581 から第2楽章 (Cl: 四戸世紀 Vn: 中村静香、沼田園子 Va: 店村眞積 Vc: 松波恵子) / シューベルト: アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821 から第1楽章 (Va: 店村眞積 P: 野平一郎) / シューベルト: ピアノ五重奏曲 イ長調 D.667 (まず) から第4楽章 (Vn: 豊嶋泰嗣 Va: 川本嘉子 Vc: 堀了介 Cb: 谷口拓史 P: 野平一郎) / スッペ: オペレッタ〈ボッカチオ〉から「あなたの愛さえあれば」、ヨハン・シュトラウスII世: オペレッタ〈踊り子、ファニー・エルスラー〉から「ジーフェリンクのリラの花」、ヨハン・シュトラウスII世: オペレッタ〈こうもり〉から「侯爵様、あなたのような方は」、ジーツィンスキー: ウィーン、わが夢の街 (S: 幸田浩子 P: 野平一郎) / ゴドフスキー (ハイフェッツ編曲): 古きウィーン (Vn: 田中直子 P: 野平一郎) / ブラムス (ヨーゼフ・ヨアヒム編曲): ハンガリー舞曲 第1番 短調 (Vn: 小林美恵 P: 野平一郎) / バルトーク: 44の二重奏曲より29番: 新年の挨拶 第2番、35番 ルテニアのコロマイカ舞曲、12番 干し草の取り入れの歌、44番 トランシルヴァニアの踊り (Vn: 沼田園子、中村静香) / シェーンベルク: 幻想曲 作品47 (Vn: 豊嶋泰嗣 P: 野平一郎) / ヨハン・シュトラウスII世: 春の声 作品410 (S: 幸田浩子 Vn1: 沼田園子 Vn2: 久保田 巧 Va: 川本嘉子 Vc: 堀了介 Cb: 谷口拓史) / ベートーヴェン: 幻想曲 短調 作品77、シューベルト / リスト: ウィーンの夜会 第6番、リスト: パガニーニ大練習曲から第3曲〈ラ・カンパネラ〉(P: 小菅 優) / ヨハン・シュトラウスII世 (シェーンベルク編曲): 入江のワルツ 作品411 (指揮: 堀伝 Vn1: 田中直子、久保田巧、豊嶋泰嗣、中村静香 Vn2: 加藤知子、沼田園子、小林美恵 Va: 川本嘉子、店村眞積 Vc: 堀了介、松波恵子 Cb: 谷口拓史 P: 野平一郎 Org: 高橋博子)



## information

- チケットに関するお問い合わせ  
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00 (月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ  
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】 毎月1回茨城新聞に不定期登場。

## ● ツイッター開設のお知らせ ●

水戸芸術館音楽部門のスタッフによるツイッターを開設しています。  
皆様のフォローをお待ちしております。  
[http://twitter.com/ConcertHall\\_ATM](http://twitter.com/ConcertHall_ATM)

## チケット・インフォメーション

### 〈3月5日(土)発売分〉

- ◎ ちよっとお昼にクラシック  
川本嘉子(ヴィオラ) & 三船優子(ピアノ)  
～ふたりのミュージズによる素敵な音楽の語り～  
5月13日(金)13:00開場・13:30開演  
料金(全席指定): ¥1,200 (1ドリンク付き)

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎ 兼氏規雄 クラリネット・リサイタル  
……………3/6(日)自由席○
- ◎ 〈ちよっとお昼にクラシック〉  
上村昇(チェロ)&迫昭嘉(ピアノ)  
～魅惑のデュオがお届けする、優雅な午後のひととき～  
……………3/9(水)中央△、左右・裏○
- ◎ 小川 遥 ピアノ・リサイタル…3/13(日)自由席○
- ◎ ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル  
……………3/26(土)中央×、左右・裏△、補助△
- ◎ 水戸うらら女声合唱団  
～35周年記念演奏会～ ……3/27(日)自由席○
- ◎ 水戸室内管弦楽団  
第82回定期演奏会 ……4/9(土)中央△、左右・裏○  
……………4/10(日)中央○、左右・裏○

2/16(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。  
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な3月のスケジュール

### コンサートホールATM

- 兼氏規雄 クラリネット・リサイタル  
3/6(日)14:00開演  
料金(全席自由): 一般¥2,000 学生¥1,500

- ちよっとお昼にクラシック  
上村昇(チェロ)&迫昭嘉(ピアノ)  
～魅惑のデュオがお届けする、優雅な午後のひととき～  
3/9(水)13:30開演 料金(全席指定): ¥1,200 (ドリンク付き)
- 小川 遥 ピアノ・リサイタル  
3/13(日)15:00開演  
料金(全席自由): 一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500 (当日¥500増)
- ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル  
3/26(土)18:30開演  
料金(全席指定): A席¥6,000 B席¥5,000
- 水戸うらら女声合唱団～35周年記念演奏会～  
3/27(日)14:00開演  
料金(全席自由)¥1,500

## エントランスホール

- バイオルガン プロムナード・コンサート  
3月: 5日(土)、19日(土)、20日(日)  
開演時間: 12:00/13:30 (2回公演) 入場無料  
※演奏は各回20分程度です。

## ACM劇場

- ザ・シェイプ・オブ・シングス ～モノノカタチ～  
3/5(土)18:00開演、3/6(日)14:00開演  
料金(全席指定): S席¥6,500 A席¥6,000 B席¥5,000
- ACM Bookmobile 『愛について語るときに我々の語ること』  
3/13(日)15:00開演  
料金(全席自由): 前売¥800 当日¥1,000
- 平成22年度水戸子供演劇アカデミー卒業公演  
『あのころ、森で戦争があった』  
3/26(土)16:00/19:00開演、27(日)14:00開演  
料金(全席指定): ¥800

## 現代美術センター

- クワイエット・アテンションズ 彼女からの出発  
2/12(土)～5/8(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで  
休館日: 月曜日  
※3/21(月・祝)は開館、翌3/22(火)休館  
入場料: 一般800円、団体(20名以上)600円  
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方  
1名は無料

## 茨城の主な3月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆ 水戸市民会館 TEL / 029 (224) 7521  
■ 第31回水戸二高コーラス部定期演奏会  
3/26(土)14:00開演
- ◆ ギター文化館 TEL / 0299 (46) 2457  
■ 鈴木大介 ギター・リサイタル 3/20(日)15:00開演
- ◆ 結城市民文化センター・アクロス TEL / 0296 (33) 2001  
■ 結城市民文化センター・アクロス開館20周年記念 NHK交響楽団特別公演  
3/6(日)15:00開演

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴ] 2011年3月発行 第156号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL: 029-227-8118 FAX: 029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司 [株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

桜花の季節にMCO!!